様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　６　月　２　日現在

機関番号：12601
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2010　～　2010
課題番号：22820018
研究課題名（和文）　歴史認識と体制構想――近代日中の「聯邦論」を中心に

研究課題名（英文）　Sino-Japanese Intellectual Connections in the Taisho Period : From the Perspective of Federalism

研究代表者
朱　琳　（ZHU　LIN）
東京大学・大学院総合文化研究科・学術研究員
研究者番号：４０５９０２０３

研究成果の概要（和文）：
これまで体系的に検討されていたとは言いがたい「聯邦論」について考察する本研究は、東洋史の分野で、とりわけ知識人の思想と活動の理解について、新たな知見を提示できるのみならず、今日においても議論の焦点となり続けている中国の国家体制や政治改革の問題と意味を考慮する際に新しい重要な示唆を与えうると考えられる。

研究成果の概要（英文）：
This research refers to “federalism”, which hardly could be considered as having been systematically studied. In the field of Oriental History, it could be considered as not only being able to present a new perspective regarding the understanding of the thinking and actions of intellectuals, but also as providing a new and important implication when considering the problem and meaning of China’s state system and political reform, which even continues to be the center of discussion to this day.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,130,000	339,000	1,469,000
年度			
年度			
年度			
年度			
総　計	1,130,000	339,000	1,469,000

研究分野：アジア政治思想史
科研費の分科・細目：東洋史
キーワード：歴史認識、体制構想、「聯邦論」

１．研究開始当初の背景

中国と日本の近代史は、解けがたく絡み合っている。特に関心があるのは、近代国家の建設を緊急課題とする世紀転換期において、日中両国の代表的な知識人がいかに目の前の政治的変動を過去―現在―未来という歴史の流れの中に位置づけ自らの主張や提言を正当化したのか、いかに歴史像の再構築によって国家体制のあるべき姿および変革の方法論を提示し現在から未来への道を打開しようとしたのか、という問題である。

そして、これまでの研究の過程で得た啓発

の一つは、大正日本と中華民国とのつながりの深さに気づかされた点である。明治期の両国関係に比べると、大正期の両国関係に関する研究は少ないものの、特に思想文化および人的交流関係は相当に活発であり、当該時期の中国思想の理解のためには大正日本の思潮の理解が欠かせない。また、大正日本の思想的傾向を理解するために、日本と深くかかわった同時代の中国の知識人の動向にも注目すべきであろう。今回研究課題として挙げている、当時中国の国家政治体制の構想をめぐる日中の議論は、まさにこうした思想的連環の好例である。

２．研究の目的

本研究は近代日中の「聯邦論」に焦点を絞り、内藤湖南、吉野作造、梁啓超、章炳麟など同時代の日中知識人の歴史認識と体制構想との関連について分析を行ない、大正時代における日中の思想的連環の一側面を明らかにさせることを目的とする。

３．研究の方法

今年度は地元の記念館や資料館を見て回り、関連する資料の収集に取り組み、取り上げられる対象の残した文献類を主な素材として思想史的テキスト分析を中心に考察を行なった。と同時に、彼らの歴史認識の背景となる思想家の議論、その他の同時代の人士の議論にも目を配って包括的に研究してきた。

４．研究成果

先行研究の業績を踏まえつつ、日本あるいは中国のどちらか一方の資料に頼るのではなく、大正日本と中華民国との思想・人的交流、とりわけ「聯邦論」をめぐる日中の思想的連環に注目し、双方の史料を活用しながら分析を行なった点において、本研究の特色がある。

これまで体系的に検討されていたとは言いがたい「聯邦論」について考察する本研究は、東洋史の分野で、とりわけ知識人の思想と活動の理解について、新たな知見を提示できるのみならず、今日においても議論の焦点となり続けている中国の国家体制や政治改革の問題と意味を考慮する際に新しい重要な示唆を与えうると考えられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

①朱　琳「梁啓超の「文明」認識およびその変遷」『東アジア文化交渉研究』4、関西大学文化交渉学教育研究拠点（ICIS）、2011 年 3 月、193－212 頁、査読有。
機関リポジトリ：
http://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/handle/10112/4283

②朱　琳「二つの中国認識――吉野作造と内藤湖南」『吉野作造研究』7、吉野作造記念館、2010 年 11 月、15－29 頁、査読有（第 2 回「吉野作造研究賞」優秀賞受賞）。

③朱　琳「中国史像と政治構想――内藤湖南の場合」（一）～（五）『国家学会雑誌』第 123 巻 9・10 号～第 124 巻 5・6 号、国家学会、2010 年 10 月～2011 年 6 月、五回連載、査読有。

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）
〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
朱　琳（ZHU　LIN）
東京大学・大学院総合文化研究科・学術研究員
研究者番号：４０５９０２０３

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：